

- ① … 2025年度 第2回理事会・評議員会開催
2026年度国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」に向けて
第80回国民スポーツ大会関東ブロック大会 サッカー競技 組合せ
- ② … 「第6回埼玉フットボールカンファレンス2026」開催
- ④ … 【連載】レフェリー育成の現場から②
「ユース審判たちの挑戦」・「1級昇格おめでとうございます」

- ⑨ … フェアプレー・規律委員会より
登録チームすべてに「クラブ・ウェルフェアオフィサー」配置を目指して Vol.4
- ⑩ … 大会記録●県内大会 1種 社会人・2種 高体連・3種 クラブ・4種
- ⑪ … 大会記録●県内大会 女子・シニア・フットサル ●県外大会 3種
- ⑫ … 大会記録●県外大会 3種・4種・女子・フットサル インフォメーション

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 シャトー雁ヶ音204 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

2025年度 第2回理事会・評議員会開催

2月7日に理事会、3月8日に評議員会が開催されました。
2026年度の事業計画書及び収支予算書が承認されました。
また、「公益目的事業における諸経費の基準に関する規程」も
改正され、事業に関わる皆さんの活動に対して、少しずつです
が改善されつつあります。詳細は各担当者にお聞ください。

また合わせて、SFA としての中期経営計画【2026-2031】
も提示され、始動することになりました。

今年度の功労賞対象者も決定し、黛俊行氏(元 SFA 審判委
員長・前 JFA 審判委員長)、濱名哲也氏(前 JFA 1 級インス
トラクター)、熊木照明氏(戸田市サッカー協会会長)、八若行
延氏(シニア連盟・埼玉県O-70代表チーム監督)、そして三
菱重工浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース(高円
宮妃杯 JFA 第30回全日本女子 U-15 サッカー選手権大会
優勝)が受賞されることになりました。おめでとうございます。

2026年度国民スポーツ大会 「青の煌めきあおもり国スポ・ 障スポ」に向けて

今年10月に開催される 2026 年度国民スポーツ大会に向
けて、以下のスタッフをお願いすることになりました。

少年男子監督 谷内 謙介(浦和北高校)

少年女子監督 斉藤 雅人(NTT EAST)

成年女子監督 石津 遼太郎(東洋大学)

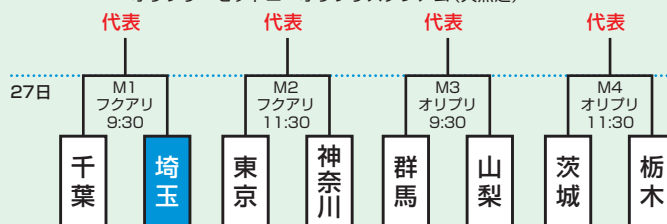
なお、今年度から関東ブロック大会は 6 月開催となりまし
た。ご声援をお願いいたします。

第80回 国民スポーツ大会関東ブロック大会 サッカー競技 組合せ

6月27日・28日【第1試合】9:30【第2試合】11:30(予定)

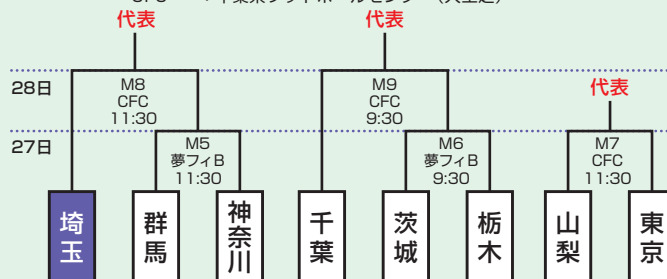
少年男子

フクアリ：フクダ電子アリーナ(天然芝)
オリプリ：ゼットエーオリプリスタジアム(天然芝)



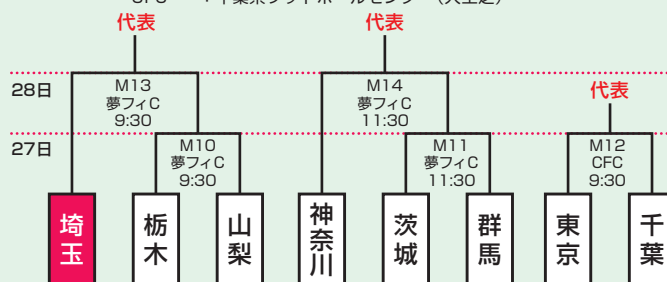
成年女子

夢フィB：JFA夢フィールドピッチB(天然芝)
CFC：千葉県フットボールセンター(人工芝)



少年女子

夢フィC：JFA夢フィールドピッチC(人工芝)
CFC：千葉県フットボールセンター(人工芝)



「第6回埼玉フットボールカンファレンス2026」開催

3月22日、学校法人佐藤栄学園栄北高等学校(伊奈町)の講堂をお借りして、「第6回埼玉フットボールカンファレンス2026」を開催しました。これは2年に1回、指導者ライセンス保持者を対象にして、受講していただくトリフレッシュポイント10を付与するという「講習会」ではありますが、現在のSFA技術委員会の取り組みに合わせて、各方面の皆さんに登壇していただき、これからの埼玉サッカーを参加者の皆さんと一緒に考え、取り組んでいこうというものです。今回のキャッチフレーズは、「2040年に向けて、さらに『Whole SAITAMA』!」とし、皆さんと意識の共有を目指しました。

【講演1】

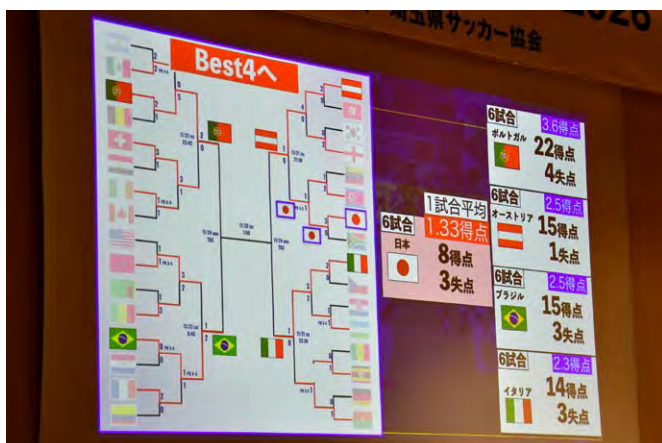
「2025 FIFA ワールドカップ U-17を振り返って」……

廣山 望氏 (U-16日本代表監督)

今年度はU-16日本代表監督に就任された廣山望氏をお招きし、昨年度ベスト8となった「2025 FIFA ワールドカップ U-17」を振り返っていただきました。チームビルディングからメンバー決定、さらに大会までに起こった様々な事象と試合内容を説明していただきました。特に和田武士選手(浦和レッズ)の活躍は特段だったとの話は、参加者の皆さんにも印象的だったと思います。埼玉としては、この舞台に何人送り出せるのかを意識しながら、世界との距離を縮めていきたいものです。



廣山 望氏



【講演2】

「SFA フットボールフィロソフィーの浸透状況」

SFA 山崎茂雄 FA コーチ/HOC

山崎FAコーチには、この4年間の積み重ねを説明していただきながら、技術委員会として取り組んでいる現状を報告してもらいました。

今回のキャッチフレーズでもある「2040年に向けて」、今何をしなければならないのか。現状ではSFAフットボールフィロソフィーの地区トレセンへの浸透が掲げられました。その上で、ストレッチ環境と個別指導を行う「ハイパフォーマンスプレーヤー」と、潜在能力への刺激環境と個別指導を行う「グッドポテンシャルプレーヤー」という個の特徴を生かした二つの育成が必要であると、内在する個性の評価と指導、ポテンシャルを考慮したプレー環境の考え方などから、評価基準の細分化が提示されました。

そして、Well-Beingとして「サッカーを楽しむ」という観点から、松山女子高校サッカー部の皆さんに協力していただき、サッカーを始めたばかりでも、「SFAフットボールフィロソフィー」に基づいた指導をすることで気づき、変化していく様子が紹介されました。



山崎茂雄氏



【講演 3】

パネルディスカッション「3 種年代から“世界”を考える」

●スピーカー

木村浩吉氏 (日本薬科大サッカー部総監督／元横浜 F・マリノス監督他)

内館秀樹氏 (浦和レッズ・アカデミーディレクター)

小池直文氏 (RB 大宮アルディージャ・アカデミーディレクター)

●特別スピーカー

立石敬之氏 (シント＝トロイデンVV CEO／元FC東京GM 他)

●SFAより

田中龍太郎 (技術委員長)

山崎茂雄 (HOC/FA コーチ)

馬場 茂 U15 テクニカルディレクター (朝霞 ESTRELA・Jr ユース)

白倉裕三 U15 サブディレクター (県中体連技術部長・川口市立幸並中学校)

●コーディネーター

荒川裕治 (広報・技術・女子委員)

映像での登場となったシント＝トロイデン VV の立石さんによると、世界と日本の一番の違いは、インテンシティの強さ。立石さんからは経験談を含めて「慣れるしかない」という話がある中、国内でいつ、どのように負荷をかけていくことで高めていけるのかという議論から、木村さんのこれまでの私見、内館さん、小池さんからは各



立石 敬之 氏



クラブでの取り組みが紹介されました。

この中で、注目されたのは若い選手の起用。カテゴリーを上げて「経験させる」というストレッチの考え方に様々な意見が出ました。そして、このストレッチこそが、上の年代と一緒にプレーすることでインテンシティを体感できる場であり、そこで子どもたち自身が学び、気づくという話が展開されました。世代を超えたプレー環境の整備は、急務であることが共有できたのではないのでしょうか。

また、木村氏からの「日本人は失敗したくないと思うことがウィークポイント」という発言から、指導者も「できること」よりも、「できないこと」を見てしまいがちであるという指摘は、特筆すべきことだったと思います。

【講演4】

「弱さを語るチームは、なぜ強いのか — 指導者のための新しい当たり前」……

小塩靖崇氏 (東京大学スポーツ先端科学連携研究機構)

スポーツメンタリティをテーマに研究をされている小塩靖崇氏をお招きし、指導者の資質向上の一助にさせていただきたいと企画しました。テーマとしては、「弱さを語るチームは、なぜ強いのか — 指導者のための新しい当たり前」。

ですが、そもそもスポーツ界のハラスメントの多くがメンタルヘルス、いわゆる睡眠不足から来た“イライラ”が原因だという導入から、睡眠不足を解消するためにどうすればいいのかを、参加者の皆さんと一緒に考えてもらいました。

特筆すべきは、小塩さんに24件もの質問・相談があったということです。参加されなかった皆さんにも学び・気づきになる返答をいただいています。一覧をSFA技術委員会ホームページ(ブログ)に掲載しましたので、ぜひご覧ください。

なお、小塩さんの著書『10代を支えるスポーツメンタルケアのはじめ方』(大和書房)もご参考になしてください。



小塩 靖崇 氏



【お詫び申し上げます】

なお、登壇者から不適切な発言がございました。すでに参加者の皆さんには連絡させていただきました。この場でも謝罪させていただきます。今後はこのようなことのないよう、コンプライアンスの徹底を図ってまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

【連載】レフェリー育成の現場から②

「ユース審判たちの挑戦」・「1 級昇格おめでとうございます」

2 回目はユース審判の育成状況をテーマにする予定でしたが、途中で 1 級審判が二人も埼玉から昇格できたという大きなニュースが飛び込んできましたので、夢に向かう若手審判たちに拍手をお願いいたします。（取材／荒川裕治）

初の「高校生主審」に～ 酒井星南さん

2023 年、中村太さん（プロフェッショナルレフェリー・PR）が J リーグ最優秀審判賞を受賞した際、「SFA NEWS」120 号においてインタビュー記事を掲載した。その際、酒井星南（せな）さんにはユース審判代表という形で加わってもらっているのを覚えていらっしゃるだろうか。あの時点で、彼はすでに 3 級審判として活動していたが、翌 2024 年 11 月に 2 級審判となり、現在は埼玉だけでなく全国的に若きトップランナーとして将来を嘱望されている存在となった。



酒井 星南 さん

「去年、U-18 を対象にした JFA 審判講習会に参加したら、一緒に組んだ人が、僕が出ていた『JFA TV』を見たことで審判を目指すことにしたと話してくれました。また、小・中の二つ下の後輩が審判を目指して、都内の高校に通いながら取り組んでいるとも聞きました。うれしいですね」

簡単に彼の経歴を紹介すると、父親もサッカーをやっており、高校時代県ベスト 16 のメンバーで、兄もサッカーをしていたことから沼影サッカー少年団、内容中学校、そして与野高校とボールを追いかけてきた。そして大学へ進学する。

「3 級から 2 級には 1 年と早かったですね。『SFA レフェリーアカデミー』に所属して活動してきたことで、多くの皆さんに目をかけていただきました。選手としてよりも審判活動が多くなりましたが、部活の仲間や顧問の梶原先生（雄太氏）には、快く送り出してもらいました」

この 1 年は、日曜日は午前中に部活、午後は主に 4 種の審判を繰り返したという。

「朝から審判となると、4 種なら最多 6 試合ということもありました。



でも全国の同年代の審判たちに比べると、決して多いわけではないですよ」

とはいえ、2 級審判になってからは大舞台が続いている。昇格後すぐに、毎年鹿児島で開催されている「全日本 U-12 サッカー選手権大会」に帯同すると、年明けの「NEXT ジェネレーションズカップ」（J ユース選抜 vs 高校生選抜）を担当した。夏の全国高校総体では初の「高校生主審」を務め、先の全国高校選手権大会では副審、第 4 の審判と経験を積み上げてきた。「国立のピッチに立てたのはうれしかったですね。ありがたいと思いました。審判としてだけでなく、サッカーファンとしてもうれしいことでした。」

ただ自分が担当させていただくということは、そのこと自体が JFA の審判委員会として新しい試みなので、自分がミスをする次の世代につながらなくなるかもしれない、というプレッシャーもありましたね。試合に向けて準備を大切に、高いパフォーマンスを維持していこうというのは強く意識していました」

選手に信頼されること

もちろん、自分がトップランナーであるという自覚がなければ、大役を務めることはできない。その自覚が成長の糧となっている。

能力として自信があるのは長距離走だ。「とにかく近くで見ろ。（プレーの）邪魔になってもいいから」——恩師の一人である木村康弘さん（SFA 審判委員会育成部会長）の言葉が、ずっと頭に残っている。とにかく目の前で見て、判断したジャッジを繰り返すことでしか信頼は得られない。

「選手に信頼されることでしかゲームを成立させられることはできません。今はただ、これを繰り返しているところです」

分岐点といえば、2024 年、柏レイソルと明治大学、さらにレイソルと拓殖大学の練習試合を担当させてもらったことだという。当然ながら 2 試合とも、これまで体感してきたスピードの感覚が違う。さらに DF ラインの高低の調整の細さに驚きもあった。より高いレベルに触れ、自分の足りない部分にも気づかされた。

例えば、全国高校総体に向けては、「入れ替わり」のオフサイドの判断がうまくできないからと、部活終わりの仲間に頼んで考えられる場面を想定し、ビデオ撮影をしながら確認した。引退後の高校選手権に向けては、弟や父、さらには少年団時代のコーチにも参加してもらって同様の確認をしたという。

「（副審だと）とにかくラインについていくのが大変です。試合では一瞬でも気を抜けない時間が続きますから。」

主審としては、ゲームマネジメントの幅が広がったと思います。どうすればプレー中の選手のストレスを解消できるのかを考えられるようになりました。

少し違うのですが、ある大会で、あるチームのファールが多かったんですね。ファールをされている方の監督さんはかなり不満を持っていたらっしゃいました。ただ、ピッチの中の選手たちとはコミュニケーションもとれて、うまくやれていました。でも、ピッチの外から見ると違うわけです。

どうすればいいのか？ 試合はいい展開ではありましたが、やはり一度止めて注意をする、さらにはカードを出すという行為は必要だと感じました。主審がファールに対応しているということを示すこ



梶原 雄太 先生

とで、ストレスは軽減されるのではないのでしょうか。監督もですが、選手も理解してくれるということが、わかるようになりました。当然、見て、流すということも試合の流れを考えると大事なことです。信頼関係を築くということも大事なことだと思います。

1 級までは最短で 1 年

とはいえ課題は、やはりマネジメント力です。去年は“飛び級”で多くの試合を担当させていただきましたが、一緒になった皆さんは年上で、また、うまい人たちがばかりでした。同じ担当でも、同じレベルではありません。

自分が大事にしているのは、準備と改善です。1 試合 1 試合を大事にして、ここまで部活と研修会に参加してきました。全国の仲間たちから話を聞くと、本当にたくさんの試合を担当している人もいます。数では敵わないなと思ったりしています。ただ、自分としては 1 試合に向けた熱量は高いと思っています。必ず撮影してもらい、皆さんからフィードバックをもらい、次の試合に向けて改善していきます。特に父が、鹿児島や福島まで駆けつけて撮影してくれるものですから(笑)。

増していく責任の重さが自然と妥協点を高くさせていく。今年は主審としては関東サッカーリーグ 2 部、関東大学サッカーリーグ 3 部を中心に活動し、副審としても上のカテゴリーの割り当てを待つ予定だ。

「今年、レフェリーセクションコースに選ばれば、1 級までは最短で 1 年です。そこから PR、国際審判となって、ワールドカップの決勝を担当したいです」

GK から審判へ～

赤田健生さん

赤田健生さんは、この 3 月まで川口市立高校に在学していた。審判資格は 3 級だ。川口にある S プロジェクト SC でサッカーを始めて、川口市立十二月田中学校を経て、川口市立高校に進学した。

「小 2 のときに友だちに誘われたのがきっかけでした。水泳などの習い事の一つという感じで始めましたが、学年が上がると試合に出ることができて楽しくなりました。小 3 になってから

自分から『GK をやりたい』と言って GK になりましたね。J リーグを見て『カッコいい』と思ったんですよ。

中学のときは川口市トレセンでしたが、SFA の GK キャンプ U15 に呼んでもらって、上原さん(克彬氏・前埼玉県 GK プロジェクトチーフダイレクター) や三上(綾太氏・現 U16 県トレセン GK コーチ) さんから指導してもらいました」

実際、川口市立高校の山田純輝先生からは「中学時代から知っていましたよ」と、県内では将来を嘱望された一人だった。

そんな赤田さんが、中学のときにまた違う「カッコいい」と思うものに出会っていた。

「顧問の石川先生(剛介氏)は、現役時代は GK。それでいて 2 級審判でした。その石川先生の主審姿を見て『カッコいいなあ』と思うようになったんです。母にその話をしたら『資格、とってみたら』と言ってきて。中 2 の終わりくらいに講習会に参加しました」

草加市の講習会を受講したところ、最年少だった。中 3 からは A 戦ではゴールマウスを守り、続く B 戦では主審を務めるというパターンが続いた。地域のフェスティバルでは大人にまじって副審も担当するなど、中学生ながら場数を踏むことができた。

高 1 の夏だった。今では喘息の影響だったのか、ケガだったのか



赤田 健生 さん

記憶にないそうだが、プレーできない日々が続いた。紅白戦だったろうか、練習試合だったろうか……山田先生に「吹きましょうか?」と自分から手を挙げた。

「そのときの笛の音を聞いて、驚いたんです。これは高校生のレベルじゃないかと。それに主審としての所作もあの時点で整っていたんですよ」(山田先生)

翌年になるが、川口市立高校のセカンドチームが上尾高校と練習試合を行うことになった。山田先生としては、上尾高校の顧問である塚田智宏さん(1 級審判・J リーグ担当副審)に「その能力」の見極めをお願いするという狙いがあったのだという。赤田さんはいつもと同様に試合に出て、3 本目を担当した。

「見込みどおり、一本釣りされましたね(笑)」(山田先生)

赤田さんとしては、J リーグ担当副審でもある塚田さんに認められたことは素直にうれしかった。ただ、同時にもどかしさも伴っていたという。

目の前で見ることができる

「やっぱりプレーしたいんですよ。でも、好きなサッカーで別の関わり方ができる、ピッチに立てる……その価値を感じました。

とはいえ、実際に GK をしているとハーフウェイラインの向こう側ってわからないんですね。相手のゴール前まで攻めていって、味方にスーパープレーがあったとしても、一体感がつかめないんです。ちょっと疎外感があるんですよ。それが、審判だったら、主審だったら、目の前で見ることができるじゃないですか。それが喜びなんですよ。そして楽しみになりました。

また審判をすることで、次のプレーの予測を常に意識するようになりました。GK として DF にコーチングするにしても、予測ができていないと的確な指示は出せません。GK をする上でも役に立ちました。だから、審判をすることで救われたような気もしています」

審判として 2025 年度はいくつも場数を踏んだ。衝撃だったのは、柏レイソルと東洋大学の練習試合。わずか 30 分だけではあったが、主審を任された。

「両チームとも、一人ひとりのプレーがめっちゃくちゃ速くて、うまくて、圧倒されました。それでも選手のスプリントにはギリギリ、なんとか追いつくんです。でも、そこでジャッジをするのは難しいです」

さらに、「U-12 全日本少年サッカー大会」の本大会にも帯同し、準決勝まで 4 試合を担当した。

「経験のない一人審判でした。思った以上にピッチは広く、プレーはなかなか予測どおりには進まないわけです。スーパープレーもありますが、小学生ですのでミスも多い。それでも予想されるプレーの選択肢を多く持つように努めましたが、それでも何が起こるかわからない……一人審判というのは、審判として成長できる場だと感じました」

心が豊かになったような

そして同世代の試合では、県高校総体と高校選手権予選で 1 試合ずつ主審を務めた。全国高校総体では副審を 2 試合担当した。

「監督、選手からはリスペクトしてもらいましたが、多少厳しい言葉を投げかけるのも仕方ないと思っています。当然ですが、試合を担当するということは『ユースだから』という話にはなりませんからね。

これからですか? 主審のほうが難しいけれど、やりがいがありますね。あとは身長が 175cm なので、ちょうど境界線。将来的に主審か、副審か……微妙です。

僕としては、審判を始めたことで夢が広がりました。なかなか勇気が必要かもしれませんが、気にかけてくれる大人の皆さんたちがいて、その手厚いサポートがあって、ここまでできました。やってみたいのであれば、まずは踏み出してほしいと思います。近い年齢で審判仲間が増えることで、僕らの活動は盛り上がりそうですし、サッカーそのもののレベルが上がると思うんです。

そして今、審判活動を通じて、全国に友だちができました。サッカーだけではなく、心が豊かになったような気がするんです」

FWからMFへ。そして審判へ～

桜井統麻さん

桜井統麻(とうま)さんがサッカーを始めたきっかけは、高校までサッカー部だった父親の影響だったという。2歳上の姉も先にサッカーを始めていたことで、当たり前のようにサッカーボールと戯れていたという。小2で大井サッカー少年団に入り、ボールを蹴り始めた。もちろん最初は遊びからだったが、FWとして点を取る楽しさを覚えると、子どもながらも少しずつプロを目指すようになった。



桜井 統麻 さん

そして、夢をつかむためにFC VIENTASを経て、「サッカーコース」のある埼玉平成高校に入った。

「中学まではFWにこだわっていました。それが高校に入って、コーチから『MFをやってみないか』と言われてやってみたところ、ハマったんですね。MFをやることで意識が変わったんです。」

当たり前ですが、サッカーはゴールを奪うスポーツです。個人スポーツではなく、団体スポーツです。MFをやることで、試合に出ること、試合に勝つこと以上に仲間とボールを蹴る、パスをつながる楽しさを知ったのです。それまでの僕は、FWとしての役割を全うしなければと思っていただけでした」

ゴールを決めることが自分の仕事だと、少々過剰になっていたのかもしれない。もちろん、チームを勝たせるという責任感が強かったのだろう。要は、オンオフにかかわらず視野が広がったということであり、サッカーの面白さが広がったと感じたのだ。

得点を奪うという結果と同様、その「結果」をもたらすために、チーム全体として攻守にわたって早い切り替えが求められ、汗をかなければならなくなった。しかし、プレーエリアが広がった分、桜井さんにとっては、ある意味「自由になった」と、サッカー観が大きく変わったのだ。

「かっこいいなと」

そして彼の視野は、さらに広がっていった。「審判もあるな、と。振り返ると中学の頃から、練習試合ですが副審をするのが楽しかったんです。最後にどちらが触ったのか?というスローインのジャッジや、オフサイドの見極めは難しいけれど、面白いと思っていました。また見ていただけですが、主審が試合をコントロールする姿もかっこいいなと。Jリーグで主審が選手とコミュニケーションをとっているのを見ると、やはりかっこいいなと」

サッカーがさらに面白くなってきたものの、現実は一筋縄ではなかった。心は揺れ動いていた。

「MFに転向したものの、2年になってもトップチームに関われないうでした。そんなときに高校総体の県予選に向けて帯同審判の希望を聞かれたんです。誰も手を挙げない中、挙手しました」

「サッカーコース」に入っただけから、目指すはプロ。監督は元川崎フロンターレの浦田尚希さん。先輩には現川崎フロンターレのDF 佐々木旭さんがいる。……心が「揺れた」どころではなかった。「監督たちから『サッカーの関わり方として、選手だけじゃない』と、選手を続けながら審判の道も進むことを尊重してもらいました。また、先に審判活動を始めていた一つ上の先輩から『(審判のことを)教えてあげる』と言っていただいたことも後押しになりました」

とはいえ、帯同とは実際に担当する、ということ。とにかく実践をと、すぐに練習試合で主審をしたものの結果は散々だった。

「ピッチの中に入ったら、頭の中が真っ白になってしまいました。判定も動きも、どれがファウルかもわからなくなってしまったんです。」

『できない!』と叫びそうになったくらいです。

でも……できないからこそ、チャレンジしたいと思ったんです。できるようにになりたい。だって、やってみないと見えないじゃないですか。4級の資格をとったのは5月。平日はチームでトレーニングして、週末はトップチームに帯同して試合を担当するようにしました。とにかく数をこなそうと思って。そのうちに県の審判委員会から割り当てをもらうようになり、土日はチームから離れるようになりました」

SFA 審判委員会が開催している「埼玉レフェリーアカデミー」に参加するようになったこともあり、その年の夏、いきなり「U-18 関東審判研修会」に招集された。基本的には全員3級という中で、桜井さんともう一人だけが4級のままで参加した。インストラクターの前之園晴廣さんからは「ダメならばアドバイスをやるから」と送り出されたが……。

「集まった人たち誰もが(レフェリングが)うまくて、僕自身はボロボロでした(笑)」

夏休み明けに3級審判を取得。そして翌年、2025年にも同じ研修会に参加することになった。

「2年目は、試合をこなすうちに、前半がよくなくても後半はよくなっているの繰り返し、自分としてはチャレンジもしましたし、いい刺激を受けた研修会となりました。ここで認められたことで、『全日本 U-12 サッカー選手権大会』にも派遣されることになったんです」

研修会となったアントラーズカップの決勝戦を担当できたことは、自信につながった。そして、県内ではU-18のSリーグは副審として、3種の県リーグや4種の県大会では主審を任せられるようになった。

まずは2級昇格を

「ここに来て、ようやくスタートラインに立ったという感じです。今年の秋は二度目になりますが、2級昇格を目指します。そして主審として、進みたいと思っています」

進路を尋ねたところ、都内の理系大学に進学すること。サッカー部はあるものの、入らないと決めている。

「皆さんにサポートしていただけることになっていますが、自分でトレーニングメニューを作って、自分一人で走って……ということになりそうです。また自分で試合を探して担当させていただくということもあるので、今後は試合の運営の皆さんと直接コミュニケーションをとることにもなります。そういうことも一つひとつ勉強だと思っています」

今、審判を目指そうとする皆さんへのメッセージをもらった。「迷っているならば、ぜひやってみてほしいと思います。想像しているよりも難しいものです。難しいけれど、続けてほしいのです。そこから楽しさが見えてくるはずですよ。」

埼玉であれば、レフェリーアカデミーなど研修会は多いですし、参加すればいろいろなアドバイスをいただけたと思います。

自分もこれから1級、そして国際審判を目指していくつもりです。よく『(表情から)欲が見えない』と言われるのですが、そんなことはなくて、本当にワールドカップの決勝の主審をやりたいと思っています。自分にも言えるのですが、やはり積極性が大事だと思います。待っています」

すでに大学在学中での留学が決まっているとのこと。このやる気に「語学」を身につければ、大きな武器になるはずだ。

「学びの場」を提供していきたい～

SFA 審判委員会育成部・河津祐介さん (新座総合技術高校教諭)

18歳年代から22歳、いわゆる「ユース審判」の育成を担当しています。

「SFA レフェリーアカデミー」は、「まずは3級をとろう」という人たちをイメージしています。2025年で9年目となり、トップトップ

のレフェリーだけでなく、県内外、国内外で活躍するレフェリーから、障がい者サッカーも含む、グラスルーツでも活躍できるようなレフェリーの輩出を目指しています。

現状、レフェリーを志す誰もが1級審判の資格をとれるわけではありません。ですが、サッカーを理解できる人材を一人でも多く輩出していきたいのです。

2025年度の「SFAレフェリーアカデミー」は8名が参加してくれました。高校1年生が1名、2年生が4名、3年生が1名、そして大学・社会人が2名です。この3年生が桜井くんで、2期目になった今年は大きく成長しました。ずっと無口だったのが、ようやくみんなとコミュニケーションがとれるようになるなど変化が見えてきています。こういうことは、プレーヤーとしても生かせる場所です。

ちなみに酒井さんと赤田くんは、この上の「SFA トップレフェリー養成講習会」に参加しており、県の高校選手権の決勝トーナメントでも主審を担当するレベルまでできました。

競技レベルの高いプレーヤーにレフェリーを

これから育成部として目指しているのは、S1リーグに所属しているチームの、競技性の高いプレーヤーを審判に吸い上げたいと思っています。できれば、各チームから2名出してもらうくらいになるといいなと。競技レベルそのものが上がっていく中、レフェリーにはよりサッカー観が求められています。ですから、参加している皆さんには「競技(部活)は続けてやりましょう」と話をしています。審判だけになってしまうと頭でっかちになることもあります。また選手目線を忘れてほしくないのです。

まずはやってみてほしい。実際に笛を吹くのは難しいことです。息が抜けてしまうと響かず、判定にも説得力が出ません。そんなところが我々の原点であり、まさにそこからの指導をしています。

研修の場として、障がい者サッカー大会もあります。自分たちが経験してきたサッカーとは異なる、見たことのないプレーを見ることができるとは、学びの場でもあります。

高校3年生で2級に昇格した酒井くんを含めて、確実にユース年代にもレフェリーという可能性が広がってきています。世界のサッカーの進歩も待たないです。埼玉からも遅れずに若い人材を育成していきます。

長谷川豊さん、美川笙乃(しょうの)さん、1級審判合格おめでとうございます！

最年少記録を打ち立てて～

長谷川豊さん

「3年生のとき、浦和・文蔵小サッカー少年団でサッカーを始めました。そこから南浦和中に進み、南稜高校へ。そして審判として東京国際大学体育会サッカー部には所属し、卒業して現職です」

長谷川さんは28歳。県内の地域金融機関に勤めながら、1級審判に合格した。決して若いわけではない。だが、審判に関しては、早熟だったという。



河津 祐介 さん

「あまり覚えていないのですが、少年団の新井監督が審判をさせていて、それが楽しそうだったので、小学6年のときには『中学に入ったら4級審判をとろう』と思ったんですね。当日は年齢制限がありましたから。講習会に参加したのは与野本町のコミュニティセンター。当時最年少でした。」

南浦和中で教えていただいたのが風間泰宏先生で、2級審判としても各大会で活躍されていました。私にとっては最初の師匠です。指導者としても素晴らしいのですが、審判としても素晴らしくて、笛の吹き方や動き方はよく真似をしたものです。当時は自分の試合に出た後、B戦の主審をするという繰り返しでしたね」

中3で3級に昇格して、これまた最年少の記録を樹立。さらに高3ではこれまた最年少記録となった2級への昇格を果たした。「でも、星南(酒井さん)が高2で2級に昇格しましたので、私の記録はあっさり塗り替えられました(笑)。当時は岡田さん(泉氏・SFA副会長)や木村滋さん(SFA審判委員長)に認めていただき、お世話になりました。」

ただ、そこまで行くことができたのは、南稜高校の外部コーチをされている佐藤秀宣さん(SFA理事)のおかげでした。佐藤さんが2級審判であり、審判インストラクターでもあったので、高校時代から一緒になってあちこちの試合を担当させていただいたからです」

「型」を学ぶ

土日は高校の練習が終わると、レッズランドに向かった。毎週のように、浦和レッズの男女のユース、ジュニアユースの試合を担当して、経験を積んだ。そして、佐藤さんから「型」を学んだという。「とにかく基礎を叩き込まれました。その中で『型』を作ってもらったと思っています。型というのは、武道の流派のようなものだと思います。カードの出し方、仲間へのシグナルの出し方、ポジション取りの動き方……そういうことを積み上げてきた期間でもありました」

高3の夏、東京国際大学のフェスティバルに審判として帯同したことがきっかけで、同大学の商学部経営学科に入学。1リーグや女子の大会を担当し続けた。

「振り返ると、ほとんど女子だったような気がします。高校や大学の試合を割り当ててもらいました。そこで感じたのは、どんな試合でも、試合は楽しいということです。卒業してから関東2部を2年担当して、その後は1部を担当してきました。これで1級になりましたので、これからJFLが中心になると思います。」

ここまで、いろいろな皆さんに求められて……縁があつてのことでした。なんとか2回目の挑戦で、最後のチャンスをモノにしたという感じです。とにかく1試合1試合、いつもギリギリの自分との戦いでした。言いすぎかもしれませんが、『死ぬ気』で挑んでいました。その中で評価をいただけたことに、本当に感謝しています。

年齢のことを考えると、ここから国際主審というのは難しいと考えています。ただ、国際副審の可能性は残っていると思っています。一銀行員ではありますが、ここから主審としてPR(プロフェッショナル・レフェリー)を目指すのか。または、副審として国際副審を目指すのか。

ワールドカップには行きたいですね……。でも、J1の浦和レッズ戦も吹いてみたいです……。選べないです(笑)。まずは今年のJFLですね」

本音は隠せない。ただただ、実直なだけ。

通過点に過ぎない

「若い審判が出てきました。うれしいかぎりです。ただ彼らにとっては、ここから環境が変化していきます。大学、就職、家庭を持つ……。審判を続けるにはかなり高いハードルを越えていかないと。」

ただ、辞めようと思えば、いつでも辞められるんです。

誰もがワールドカップの担当審判になることを夢見ています。目指すところに少しずつ近づいてほしいと思いますし、私もちょっと、ち



長谷川 豊 さん

よつとの積み重ねでここまでできました。

1級になりましたが、これはこれで通過点に過ぎません。今の意識を変えずに続けることが、夢につながると思っています。毎シーズン、開幕戦に向けて思うことは『いいシーズンにしよう』。そして、ケガなく、成長できたと思えるオフを迎えて、まだ次のシーズンへ。そんな日々を続けていけたら」

正月明け、所属している戸田市サッカー協会審判部の新年会で祝杯を挙げた。仲間の皆さんが、自分のこととして喜んでくれたのが、うれしかった。さらに3月には戸田市サッカー協会特別表彰を受け、改めて多くの皆さんとつながっていることを強く感じた。

ここから先、行けるところまで行きたいと思っている。

恵まれた「サッカー漬け」を生かして～ 美川 笙乃さん

「2015年、国体のメンバーに選んでいただき、橋岡くん（大樹・KAAヘント/ベルギー）がセンターバック、私が右サイドバックでDFラインを組みましたが、関東ブロック大会は突破できませんでした。埼玉開催。埼玉スタジアムの第2グラウンドで群馬に0-1で負けてしまいました。埼玉が好きで埼玉のために、と思って過ごしたあのチームではレズユース、アルディージャユースのみんなの中に揉まれて……井澤くん（春輝・ギラヴァンツ北九州）がいて、奥抜くん（侃志・ガンバ大阪）がいたのに、残念でした。

西武台高校時代は結局、1年生からレギュラーだったものの高校選手権に3年間出場できませんでした。埼玉スタジアムのピッチにも立ち、3年のときは、駒場で武南にPK戦で負けました。そして国士舘大学に進学して、1リーグの関東で優勝し、全国で準優勝したというのが、私の選手としてのキャリアです」

美川 笙乃（しょうの）さんは、母校・西武台高校の教員。サッカー部の副顧問でもある。2024年度はセカンドチームの監督として、県U-18のS-2リーグで優勝。昨年度はS-1リーグで2位となり、トップチームのいるプリンスリーグ関東2部が視野に入ってきたところまで来た。そして、個人として1級審判への昇格を果たした。指導者と審判の二足のわらじを履いて、結果を出したのだ。

選手としても期待されていた中で、そもそも審判活動のきっかけはどのようなものだったのだろうか。

「大学1年生の終わり、練習中に右ひざの後十字靭帯を部分断裂してしまっただけです。これで選手としては厳しい状態になりました。

居場所を見つけた

ボールを蹴ることができない。対人プレーなどできつい……でも、動くことはできました。そこでリハビリがてら審判をやってみよう。リハビリの延長でしたが、2年になったときには、Cチームでしたがトップチームの紅白戦の主審を任せてもらえるようになりました。

あのとき思ったのは、“居場所を見つけた”という感じでした。トップチームの練習をサポートできるということにやりがいを感じながら、『審判って、面白いな』と」

高校時代に川口市で4級審判資格を取得していた。ケガをきっかけに地元浦和で審判活動をし始めると、あっという間に3級へ昇格することができた。

「大学3年のときに、高校選手権の県予選で聖望学園と細田学園の試合に4thで入ったんです。まだ3級だったのですが、経験させてもらいました。ちょうど、浦和駒場スタジアムでの開催。選手ではあ

りませんでした。『駒場に戻ってきた』という思いと、ここからより上の世界を見てみたいという気持ちになりました」

埼玉のレフェリートレセンでも学び続け、大学3年の秋、2級審判に合格した。休日の午前中は国士舘大学で自チームのトレーニングの後、西武台高校が参加するルーキーリーグの主審に駆け付け、夕方には再び鶴川のグラウンドへと戻り、1リーグの主審……選手としても続けながら、とにかく笛を吹き続けた。大学4年次は、JFAが主催する「関東レフェリアアカデミー」の3期生に選ばれ、2年間、安元利充アカデミーマスター（大宮高校教諭）の下で学ぶことになった。また、並行して1リーグの全国大会に出場し、準優勝もした。「やはり選手をしているからこそ、やっていたからこそロジカルに物事を考えて、試合への準備ができたのだと思います。また審判の実技はもちろん、私たちに必要な英会話やピラティスなどを学び、身につけられたことで1級が見えてきましたし、学び続ける中で1級を目指したいという気持ちが強くなりました」

高校を卒業する際、恩師である守屋保先生から「教師になるんだぞ」と送られた言葉どおり、大学卒業後は“帰還”を果たした。教師と共に部活の副顧問、そして審判とフル回転の日々が待っていた。「卒業して1年は関東のAカテゴリーとして、関東の社会人、大学リーグを担当し、翌年からはSカテゴリー、Xカテゴリーとなり、J3やJFLの4thも担当してきました。

これで1級。ここからはどうやって自分の立ち位置を上げていけるかが問われます。若さだけではなく、大学まで続けてきた選手としての経験、そして現在は指導者でもある強みをどう生かすことができるかが課題です。

「ここからだぞ」

さて、一番心配していた（であろう）守屋先生からはどんな言葉をもらったのだろうか。

「国際審判を目指せ、です。先生からは『指導者は身体が動かなくなってもできる。今すべきことは、指導者ではなくレフェリー。やれるところまでやれ。ここからだぞ』と。あと『みんなができないことをやれ』と言ってもらいました」

当然ながら、その言葉どおり、前に進むつもりだ。「個人的にですが、皆さんから『美川の（担当する）ゲームって、こうなるな』と言ってもらえるようになりたいと思っています。何かに左右されることなく、激しい接触プレーもあるけれど、プレーヤーズ・ファーストであること。審判の仕事は、選手が楽しいと思い、気持ちよくプレーでき、その力を引き出すことですからね」

最後に、これから審判を目指したいという皆さんへのメッセージをいただいた。

「先ほども言いましたが、選手がサッカーを楽しみ、喜びを感じるよう役割を果たしています。審判もサッカーを楽しんでいますし、喜びを感じています。いろいろな人が関わってプレーができ、審判が



できるのです。大きく言えば、審判もまた、サッカーの“パーツ”の一つなのです。

まずはサッカーを楽しみましょう。楽しむことができれば、審判もうまくなります」

皆さんはサッカーを楽しんでいるだろうか。誰もが「サッカーは楽しい」と思えるためにも、審判は進化し続けなければならない。きっと彼ら5人は、それぞれ進化し続けてくれるだろう。そして彼らを通じて、サッカーに関わり続けていく方法として「審判も選択肢の一つ」であることを理解していただけるとありがたい。

最後に若きレフェリーたちに、昨今の各チームのベンチの様子を

聞いてみた。返事は異口同音だった。

「ルールをご存じなのかどうか？」

もちろん、こんな大人びた表現ではなかった。

毎年、ルールは若干でも変化し、よりよいものになっている。最新のルールを理解した上で、ベンチに座ることが必要ではないだろうか。サッカーそのものの本質は変わらない。ただ、トレンドは変化する。「育成」を考える上で、個々の子どもたちの将来をどう考えるのか。子どもたちの「その先」にあるサッカーは進歩をし続ける。今、指導者が取り組まなければならないものは何か？ 若きレフェリーたちから学ぶことはないのか？ 指導者の皆さんには、今一度、ご自身に矢印を向けていただきたい。

フェアプレー・規律委員会より 登録チームすべてに「クラブ・ウェルフェアオフィサー」配置を目指して Vol.4

フェアプレー・規律委員会では全登録チームに「クラブ・ウェルフェアオフィサー」を配置することを目指しています。JFA 及び SFA への「暴言・暴力」などのハラスメントの相談・通報は前年度とほぼ変わっていません。皆さんの努力で、埼玉県のサッカー環境がよりよいものにしていただきたいと思います。ぜひ、クラブ・ウェルフェアオフィサー講習会の受講をお願いいたします。前号に続き、取得者の皆さんの氏名・チーム名を掲載させていただき、理解の輪を広げていきたいと考えています。

なお、講習会開催に関しては、各カテゴリーの担当者にお尋ねください。

※クラブ・ウェルフェアオフィサーとは…… 所属クラブにおいてリスペクト・フェアプレーを推進するリーダー

2025年クラブ・ウェルフェアオフィサー取得者一覧

※ 2026/3/31 現在、896名取得

塩崎 誠 (吉川ホワイティシャークサッカースポーツ少年団)、夢川 崇好 (大袋フットボールクラブ)、鳥飼 武志 (FC セシーザ)、土持 良磨 (草加遊馬キッカーズ) 小泉 慎 (FC 蒲生東スポーツ少年団)、小林 弘幸 (越谷サンシンサッカースポーツ少年団)、石渡 英之 (越谷桜南サッカースポーツ少年団)、山川 庄平 (西町フットボールクラブ)、矢野 賢二 (桜井サッカースポーツ少年団)、細井 一誠 (大相模サッカースポーツ少年団)、北村 謙太 (FC ガナドル吉川)、林 善一 (松伏 FC スポーツ少年団)、佐藤 倫那 (越谷南フットボールクラブ)、鈴木 裕之 (松原フットボールクラブ) 今井 伸和 (FC ブラックジャガースポーツ少年団)、中里 幸生 (八条フットボールクラブ)、横川 守 (高砂イレブンフットボールクラブ)、廣岡 右字 (早稲田つつみ FC スポーツ少年団)、白川 公二 (FC ひまわり)、雑賀 隆志 (戸ヶ崎イレブンスポーツ少年団)、岡田 正二 (大沢北 FOOTBALL CLUB)、梅田 洋一 (ミトス吉川サッカー少年団)、佐々木 昌一 (三郷フットボールクラブ Jr.)、岡島 敦 (草加ジュニアフットボールクラブプライマリー) 菊地 明 (FC 八潮メッツジュニア)、木村 光善、柳田 浩忠、北村 剛 (以上、FC スペーラル toda)、吉田 涼 (1FC 川越水上公園)、山川 克典、木元 駿也 (以上、BruderSV Frauen)、板野 光晴、八谷 直樹 (以上、FC フェミニノ川越)、加島 聡明 (FOOT BALL CLUB ETERNO)、川辺 拓真 (GRAMADO FC TOKINAN)、小島 哲広 (INAC 白岡 SC レディース)、嶋垣 莉沙 (RB 大宮アルディージャ WOMEN U15)、大槻 真一郎、馬場 直也、中森 秀明、高木 柊 (以上、クラブ与野レディース)、大須賀 まき (ちふれ AS エルフエン埼玉マリ U-15)、村田 幹夫 (フィリアフットボールクラブ)、安田 孟浩、西谷 冬樹 (浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース)、神戸

慎太郎 (浦和レッドダイヤモンズレディースユース)、高橋 勝行 (越谷レディースファミリー)、小久保 英行 (熊谷リリーズ Jr. ユースカサブランカ)、染宮 美紀 (熊谷リリーズ Jr. ユースカサブランカ)、雑賀 淳、沼口 淳哉 (以上、戸塚 FC ガールズ U15)、松田 正、日戸 彰 (越谷南フットボールクラブ)、青木 隼人 (戸ヶ崎イレブンスポーツ少年団)、赤荻 宏明 (ミトス吉川サッカー少年団)、秋山 康太 (ベラーダジュニアーズ)、池田 勇治 (FOOTBALL CLUB 蒲生東)、宇野 翔琉 (レスチ埼玉ジュニアユース U-12)、大久保 直人 (松原フットボールクラブ)、太田 伸一 (吉川武蔵野サッカースポーツ少年団)、小川 俊 (AFC Souka ASUMA)、片岡 雅樹 (桜井サッカースポーツ少年団)、加藤 英夫 (草加フットボールクラブアルファ)、金高 太郎 (桜サッカースポーツ少年団)、菊実 修 (稲荷 FC)、久野 孝太 (リパティ埼玉 SC)、栗岡 敬也 (FC ブラックジャガー少年団)、高鹿 友和 (FC ガナドル吉川)、小林 祐太 (FOOTCOM.FC)、小室 岳裕 (三郷フットボールクラブ Jr.)、斉藤 豪利 (高砂イレブンフットボールクラブ)、齋藤 弘輝 (大相模サッカースポーツ少年団)、斉藤 雄一 (越谷 PC キッカーズスポーツ少年団)、坂本 喜一郎 (南郷 FC スポーツ少年団)、坂本 琉心 (FC アスリート三郷)、佐藤 和明 (瀬崎サッカースポーツ少年団)、佐藤 洋平 (三郷 Jr Youth U12 C.F.PASION)、篠塚 亮太 (越谷サンシンサッカースポーツ少年団)、須貝 亨 (CF ソルダード)、鈴木 啓太郎 (清門フットボールクラブ)、須田 浩史 (草加 FC ジュニアプライマリー)、染谷 卓 (吉川ホワイティシャークサッカースポーツ少年団)、高橋 裕行 (南郷 FC スポーツ少年団)、高橋 克徳 (松伏スプロウト SC スポーツ少年団)、高橋 真広 (FC REGAME)、武田 鎮雄 (大沢北 FOOTBALL CLUB スポーツ少年団)、武田 秀典 (FC 八潮メッツジュニア)、富田 和記 (プライド FC)、富田 颯 (越谷ウィーン SC)、中村 隆憲 (彦成フットボールクラブ)、西山 徹 (三輪野江ヴィクトリーズ)、花車 進矢 (越谷フットボールクラブ)、林 栄治 (松伏 FC スポーツ少年団)、平川 勝博 (新田フットボールクラブ)、平町 和也 (ロードガーデン FC)、廣長 健司、堀内 照夫 (以上、越谷桜南サッカースポーツ少年団)、松元 龍也 (草加遊馬キッカーズ)、黛 健人 (西町フットボールクラブ)、柳生 俊介 (FC ひまわり)、山本 重太 (FC Lake Town)、山本 雄一 (草加住吉サッカークラブ)、若張 慶太 (宮本サッカースポーツ少年団)、佐藤 翼 (FC ジェンシャン草加)、金杉 伸二 (レジスタ FC)、野辺 賢悟、中里 春樹 (八条フットボールクラブスポーツ少年団)、多田 稔 (F 審判)、山上 和之 (AOH フットサルクラブ)、脇 伴彦 (F 審判)、伊藤 正巳 (F.G.Salwooo)、田嶋 健一 (crasse saitama)、酒井 哲 (FSO)、中出 隼人 (F 審判)、増田 和宏 (エストレーラ)、石川 和則 (アバンソールさいたま)、森田 巧一 (F 審判)、石崎 貴順 (えだまめ)

大会記録●県内大会

1種・社会人

第17回埼玉県社会人サッカートーナメント会長杯 兼
第31回彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会予選

1月11日～2月22日 東京国際大学グラウンド他

COEDO KAWAGOE F.C.	1	6	2	2	Tokyo International University
FC西武台	0	1	0	0	越谷FC
ACアルマレッザ入間	1	0	0	0	大里FC
さいたまSC	0	1	2	2	FCカラスト埼玉南西
アヴェントゥーラ川口	0	1	0	1	CALIENTE KUMAGAYA
FCプエンテット	2	0	2	2	KUMAGAYA CITY FC
FC BOWTH	0	5	1	1	FC 3DEP
KONOSU CITY FC	9	3	5	3	東京国際大学FC

※優勝した東京国際大学FCは2025年度彩の国カップ第31回埼玉県サッカー選手権大会に出場する

県1部リーグ昇格プレーオフ

12月21日 SFAフットボールセンター

武南FC(2部A2位) 3-1 草加FC(2部B2位)

※武南FCは、2部A1位のFC西武台と2部B1位のFC3DEPと共に2026年度県1部に昇格する

日本スポーツマスターズ2026 サッカー競技 埼玉県予選会

12月14日、21日 SFAフットボールセンター他

与野蹴魂会	6	0	与野蹴魂会
フォルサ ビオネーロ 川越	0	7	与野蹴魂会
ACアルマレッザ入間Iazo	0	6	与野蹴魂会
FC3DEP	0	0	与野蹴魂会

2種・高体連

令和7年度県民総合スポーツ大会兼埼玉県高校サッカー新人大会

2月7日～15日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

昌平	5	5	6	成徳深谷
立教新座	0	1	0	桶川
浦和学院	3	1	4	西武台
正智深谷	2	0	0	浦和西
花咲徳栄	0	2	1	西武文理
聖望学園	2	2	2	浦和東
大宮南	0	1	0	春日部
細田学園	1	7	9	武南

※武南高校は2大会ぶり12回目の優勝

武南、聖望学園は関東高校記念大会に出場



優勝 武南



決勝 武南 vs 聖望学園

3種・クラブ

第35回埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会
決勝トーナメント

12月13日～1月31日 埼玉スタジアム第3グラウンド他

アルディージャ	2	3	0	Gois
アスミ	0	1	4	プレジール
ゼブラ	1	2	2	カリオカ
クマガヤ	2	1	0	草加Jr
武南Jr	1	0	2	三郷Jr
ディプロ	0	0	2	コルージャ
1FC	2	1	0	カムイ
ペレーニア	0	1	3	クラブ与野

※優勝はRB大宮アルディージャU15

第28回埼玉県ユース(U-13)サッカー選手権大会

2月7日～28日 さいたま市堀崎公園サッカー場他

CAアレグレ	10	2	2	FC LAVIDA
杉戸町立杉戸中学校	0	1	4	聖望学園中学校
ペレーニア	1	0	0	クマガヤSC
さいたま市立大原中学校	0	0	0	川口市立安行中学校
A.C.アスミ	7	1	16	クラブ与野
星野学園・秀明中合同	0	2	0	本庄東本庄西尻玉本庄第一中合同
ゼブラFC	2	1	13	武南ジュニアユース
立教新座中学校	1	0	0	越谷市立大袋中学校

※優勝はFC LAVIDA

4種

第20回埼玉県第4種新人戦中央大会

2月11日～22日 SFAフットボールセンター他

レジスタFC	8	1	3	浦和レッドダイヤモンズジュニア
カムイジュニア千代田	0	7	2	ヴィオレータフットボールクラブ
JSCGRANT	5	0	1	KIDSPower.SC
FCチベッタ深谷	1	1	0	新座片山フットボールクラブ少年団
FCアピリスタ	1	0	1	東山パレーニアフットボールクラブジュニア
江南南サッカー少年団	0	4	3	はくするフットボールクラブ
ペラーダジュニアーズ	1	0	1	F.C.VELSA
エクセレントフィートFC	1	0	8	RB大宮アルディージャU12

※優勝したレジスタFCと準優勝のRB大宮アルディージャU12は、埼玉県代表としてJA全農杯チビリンピック2026関東大会に出場する



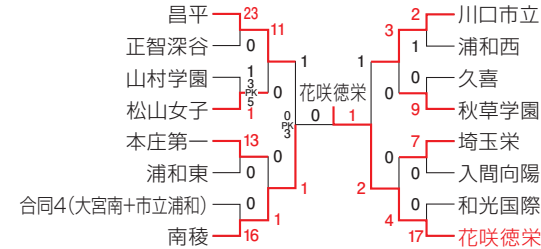
優勝 レジスタFC



決勝 レジスタFC vs RBアルディージャU12

女子

令和7年度埼玉県高等学校女子サッカー新人大会
1月17日～2月15日 埼玉スタジアム第2グラウンド他



※優勝は花咲徳栄高校。3年ぶり7回目



優勝 花咲徳栄



決勝 花咲徳栄 vs 南稜

シニア

2025年度埼玉県シニアサッカー連盟 代表決定戦 (0-40)

1月18日、25日 熊谷スポーツ文化公園補助陸上競技場他

準決勝 SOL TODA 0-0 川口 SC
3PK1

決勝 FC 西武台 2-0 SOL TODA

※優勝した FC 西武台は関東大会に出場

2025年度埼玉県シニアサッカー連盟 代表決定戦 (0-50)

1月18日、25日 熊谷スポーツ文化公園補助陸上競技場他

準決勝 クマガヤ SSC シニア 3-1 FC 浦和

決勝 FC 西武台 1-0 クマガヤ SSC シニア

※優勝した FC 西武台は関東大会に出場

2025年度 O-40 1部・2部入替戦

1月25日 熊谷スポーツ文化公園補助陸上競技場

東春 1-1 与野シニア

※東春が1部残留

2025年度 O-50 1部・2部入替戦

1月25日 熊谷スポーツ文化公園補助陸上競技場

SOL TODA 1-0 ロク FC

※ SOL TODA が1部残留

フットサル

京橋アートレジデンス第25回埼玉県フットサルリーグ 1部
2025前期リーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	アバンソールさいたま	16	5	1	1	13
2	FG サルー	15	5	0	2	10
3	ディセンドーラ吉川	13	4	1	2	10
4	烏天狗	11	3	2	2	2
5	ディセット浦和	9	3	0	4	4
6	ピースパイダーFC	9	3	0	4	-7
7	MK sports club	7	2	1	4	2
8	FCフレボ	1	0	1	6	-34

京橋アートレジデンス第25回埼玉県フットサルリーグ 1部
後期上位リーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	FG サルー	24	3	0	0	12
2	アバンソールさいたま	22	2	0	1	5
3	ディセンドーラ吉川	14	0	1	2	-4
4	烏天狗	12	0	1	2	-13

京橋アートレジデンス第25回埼玉県フットサルリーグ 1部
後期下位リーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	ディセット浦和	18	3	0	0	24
2	MK sports club	13	2	0	1	-4
3	ピースパイダーFC	10	0	1	2	-8
4	FCフレボ	2	0	1	2	-12

※後期リーグの勝点は前期分を加えた数字

京橋アートレジデンス第22回埼玉県フットサルリーグ女子
2025

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	祭	22	7	1	0	25
2	さいたまSAICOLA PENTAS	14	4	2	2	10
3	AOHレディース	10	3	1	4	-5
4	LLEON SC	6	2	0	6	-1
4	If Levante 北本 señorita	6	2	0	6	-29

大会記録●県外大会

3種

2025 関東U-15リーグ

●1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
2	FC LAVIDA	34	10	4	4	18
3	浦和レッズジュニアユース	31	7	10	1	5
6	RB大宮アルディージャU15	21	5	6	7	-1

●2部A

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
6	A.C.アスミジュニアユース	21	6	3	9	-4
7	GRANDE FC	21	6	3	9	-7

●2部B

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
5	クラブ与野	8	8	4	6	8

2025 関東U-13リーグ

●1部A

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	FC LAVIDA	28	8	4	2	22
5	浦和レッズジュニアユース	22	7	1	6	-3

●1部B

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
6	RB大宮アルディージャU15	17	5	2	7	-1
7	クラブ与野	16	4	4	6	-4

●2部C

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
4	A.C.アスミジュニアユース	31	9	4	5	8
6	クマガヤSC U-13	22	6	4	8	-9

●2部D

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
10	FC深谷	14	4	2	12	-55

4 種

JFA U-12 ガールズゲーム2025関東 in 群馬

1月24日、25日 コーエィ前橋フットボールセンター

Bブロック JFC アミスタ市貝 0-3 狭山女子FC

さぎぬマスワズ 1-0 狭山女子FC

※狭山女子FCはブロック2位

Dブロック 熊谷リリーズ 3-1 青梅新町FC ショコラ

熊谷リリーズ 1-3 ファナティコス

※熊谷リリーズはブロック2位

Fブロック 松戸FC U12 2-1 東大宮エンジェルス

東大宮エンジェルス 1-0 Uスポーツクラブブソーレ

※東大宮エンジェルスはブロック2位

Gブロック TOKYO NADESHIKO FC 1-0 陣屋アイリス

陣屋アイリス 1-0 FC SHUJAKU Fiora

※陣屋アイリスはブロック2位

●2位トーナメント

1 回戦 Yachiyo Girls 0-3 狭山女子FC

ブルームスつくば 1-4 熊谷リリーズ

駒林 SC ローザ 0-2 東大宮エンジェルス

陣屋アイリス 2-1 FC ふじざくら山梨 JE

準決勝 狭山女子FC 1-1 熊谷リリーズ

5PK4 東大宮エンジェルス 0-1 陣屋アイリス

決勝 狭山女子FC 0-0 陣屋アイリス

3PK2

※2位トーナメント優勝は狭山女子FC。1位トーナメント優勝はTOKYO NADESHIKO FC

女子

第34回全日本大学女子サッカー選手権大会

12月23日～1月6日 味の素フィールド西が丘他

2 回戦 東京国際大学 3-0 静岡産業大学

準々決勝 大阪体育大学 0-2 東京国際大学

準決勝 山梨学院大学 1-0 東京国際大学

※優勝は山梨学院大学

第5回関東U-18女子サッカーリーグ

●1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
3	三菱重工浦和レッズレディースユース	20	6	2	6	-1
8	昌平高校	9	2	3	9	-19

●2部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
2	RB大宮アルディージャWOMEN U18	31	10	1	3	24
3	ちふれASエルフェン埼玉マリ	28	9	1	4	9

※1部8位の昌平高校は2部に降格。2部2位のRB大宮アルディージャWOMEN U18は1部に昇格

フットサル

メットライフ生命女子Fリーグ 2025-26

●レギュラーシーズン

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失差
9	さいたまサイコロ	5	1	2	7	-40

●ファイナルシーズン 下位リーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失差
8	さいたまサイコロ	15	3	1	0	-34

※優勝はSWH レディース西宮

第27回関東フットサルリーグ2025 2部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
5	AOHフットサルクラブ	16	5	1	5	-14
8	クラッセ埼玉	12	3	3	5	-2
10	スプリズ	9	2	3	6	-7

第16回関東女子フットサルリーグ2025

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失差
3	Ambition	15	5	0	4	6

JFA 第22回全日本女子フットサル選手権大会関東大会

1月10日～18日 駒沢体育館他

1 回戦 山梨女子TC 0-5 Ambition

さいたまサイコロ 2-1 府中アスレティックFC レディース

準々決勝

フウガドールすみだレディース 3-1 Ambition

さいたまサイコロ 4-4 タバシーダ世田谷

6PK5

準決勝 さいたまサイコロ 2-4 バルドラール浦安ラス・チュラス

※優勝はアニージャ湘南（Fリーグ）。上位2チームは本大会へ出場

インフォメーション

「埼玉パラサッカーデー」開催

2025年から、SFA総務委員会内に「パラサッカー部会」が設置されました。

3月7日、埼玉県立大学（越谷市）の体育館をお借りして、電動車椅子サッカー体験とブラインドサッカー体験をしてもらいました。障がい者サッカーのプレーヤーの皆さんが、午前中は越谷市立千間台中学校サッカー一部の皆さん、午後は越谷PCキッカーズの皆さんと交流を持ちました。

同じ「サッカー」でも、実際に見たことも、やったこともない競技に子どもたちは戸惑いながらも、新鮮な経験になったようです。またそれだけでなく、子どもたちは障がいを持ったプレーヤーの皆さんと一緒に「まげこげ」サッカーを体験して、健常者と障がい者には垣根がないということの理解を深めてくれました。

アンバサダーとして参加した塚本泰史（RB大宮アルディージャ・クラブアンバサダー）さんからは「初めて障がい者スポーツに触れるという人も多いと思いますが、前向きにチャレンジして、いい経験をしてください」という話がありました。

SFAとしては、パラサッカーを通じて、今後も障がい者スポーツをサポートしてまいります。

